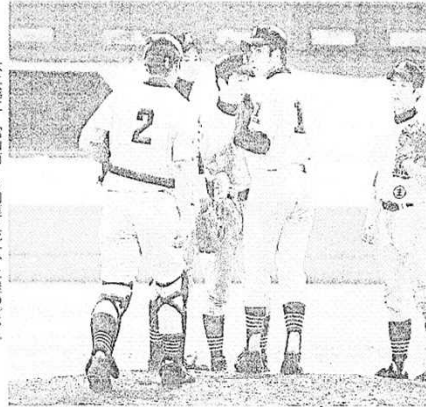


第82回春季
県高校野球大会

第6日



不二越工・富山商 6回裏の死一、二塁のピンチ
でピンチ下で相手の不二越工の投手と捕手の間に

残念・無念 富山商業に逆転負け

相手ミスで得た好機に曇り掛けられず、終盤に逆転負け。シード校の不二越工が8強を前に姿を消した。蛇田監督は「取るべきときに点を取れなかった。最後は勝利への執念の差が出た」と振り返った。

前半はベースを握った。二回に大嶋が先制打を放つと、中盤も小刻みに加算得点した4イニングはすべて四球、敵失と、相手のミスが足掛かりだっただけに、一方的な試合になるかと思われたが試合の流れを決つけないおと一本が出ない。二、四、五回、いずれも点を奪ってなおも「死」得点圏に走

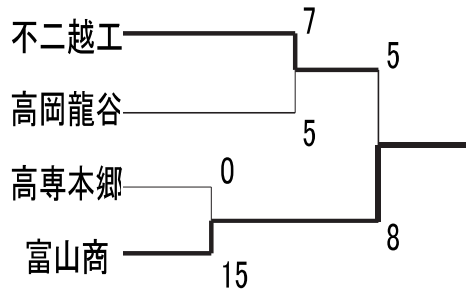
シード校・不二越工

好機生かし切れず

者を置きながら、後続の2人がことごとく凡退。効果的に加算できなかった。好機をもらいながらビッグイニングをつくれぬ。消化不良感。投手陣には目に見えない重圧となった。終盤は必死の継投もむなしく相手打線の粘りの前に大量失点。幾度も続いたまづい攻めが富山商の意を味返させ、試合の主導権そのものを手放す結果につながった。

「日々の練習から自分を追い込み、強い精神力を身に付けてほしい」と蛇田監督。夏に向け、選手の奮起を期待した。

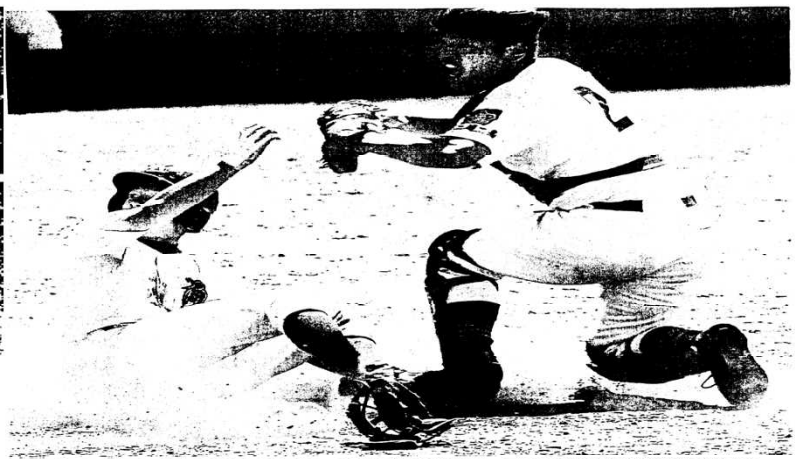
(社会部・七瀬智幸)



全国
高校野球
2010 富山大会

暑い夏が始まった

大勝



【不二越工-高岡向陵】五回裏、高岡向陵1死満塁。太田の中前打で機部に続いて富山が本塁打で逆転。捕手高田

不二越工

勝敗を分けたのは、不二越工の左腕攻略への執念と安定した守備力か。

5月中旬の練習試合では不二越工が高岡向陵の左腕・西田を打ち崩せず、1-2で敗れている。この時、無安打で苦悶を醸成した不二越工は四回高田は投手の後援に頼り、高岡向陵は面に安打をたたんで振り回すなど、きついで。

各選手が左腕攻略に知恵を絞った。体面から打てた点に対し、高岡向陵が点でと松下。4打数で安打と打終わっているのは、度々本塁点という種に納得の表情をでまかせた。一チームで一番身体能力の高

主将の山崎直球の投球は、いい野上の好球に助けられつつ、同じく安打と打点のたつ川端好守で大量活躍を見た。川端は四、五塁を食いとった不二越工が打回の攻勢を費の分かれ目に、撃退を制した。

